

新中央診療棟オープンまで残り1年となりました

令和3年9月に工事着工し、建設整備を進めております新中央診療棟(以下「新棟」と言う。)の開院まで残り1年となりました。そこで現時点での工事進捗の状況とともに新棟の機能や特色についてご紹介いたします。

1 工事の進捗状況等

- ・全体工期28ヶ月中20ヶ月が経過
- ・土工事、基礎工事、地下階免震工事、鉄骨組み立て工事と進め、概ね完了
- ・今後、外壁、内装、設備、外構工事を同時に進め令和5年12月末に竣工、引き渡しの予定
- ・約4ヶ月の準備期間を経て令和6年4月30日開院の予定

2 新棟整備の目的、新棟の特色

医療機能の拡充と患者さんへのサービスの向上を目的として老朽化した現中央診療棟の機能を敷地内に新棟を建設し移転させます。

<新棟の概要>

延床面積	24,153.34㎡	
構造等	地上5階、PH2階、鉄骨造、免震構造	
階の構成	1階	救急、外来、中央採血、外来日帰りセンター
	2階	外来、放射線部門
	3階	核医学、検査、内視鏡、整形外科病棟
	4階	手術部門、救命救急センター
	5階	新生児センター、小児・女性病棟
その他	地下階:免震ピット、PH階:ヘリポート	

<新棟の外観イメージパース図>



<主な特色>

- ・患者さんの利用頻度の高い部門を低層階に配置することや中央廊下から診療科を把握しやすいよう配置することで、患者さんの回線を改善。
- ・「外来日帰りセンター(仮称)」を1階中央に配置し、処置や注射、点滴や日帰り検査・手術後の回復の効率化により、患者さんの負担軽減。
- ・総合受付・待合、エントランスホール、外来受付の内装材に地元産のタイル、東濃檜、美濃和紙を用いた照明器具を採用し、来院者にとって開放的であたたかみのある空間を創出。
- ・手術室と救命救急センターを4階に隣接して配置することで術後の救命救急センター管理や、急変時の手術対応などが円滑化。
- ・手術室数の増加(現8室から11室)に加え、1室あたりの面積についても拡大することで、より多くの手術が実施でき、安全に手術を行うことが可能。
- ・東濃地域で初めて内視鏡手術支援ロボットとハイブリッド手術室を導入(ロボット手術室とハイブリッド手術室を各1室確保)。
- ・免震構造の採用、ガスを燃料とした発電システムの増設、水害を想定し高額医療機器を2階より高層階に配置、県防災ヘリの離発着が可能なヘリポートの設置により、地域災害拠点病院として災害時の備えを強化。

3 問い合わせ先

岐阜県立多治見病院 新棟建設室 新棟建設担当 片田・原
連絡先 0572-22-5311(代表) 内線:2211 又は 2214

① 外来ブロック受付



フロア全体を一望でき、各診療科の位置が把握しやすい配置(受付カウンターの装飾に地元産モザイクタイルを使用)

② 総合受付・待合



美濃和紙を用いた照明器具を配置

③ エントランスホール



東濃檜のカーテンウォールと地元産タイルを使用したギャラリースペース



地方独立行政法人

岐阜県立多治見病院